

「憧れの小学校教員 ～子どもと共に学ぶ一年～」

一般 中嶋 重里

私は、鳩山町立今宿小学校で5年生の担任をしています。この4月から、憧れていた小学校の教員としてスタートをきりました。小学校の教員としての生活は楽しく、毎日充実した日々を送っています。何故、私が教員という道を選んだかです。教員は、大好きな子ども達の人生に大きくかかわることのできる責任感ある職業で、私たちにこれほどやりがいのある職業は他にないと思ったからです。小学生の時の卒業式で、担任の先生が涙を流して泣いていたのを今でも覚えています。音楽朝会の時も伴奏が止まってしまい、歌が止まってしまった時に、大きな声で私達を応援してくれた熱い先生でした。決して泣くことのない男の先生でしたが、私達に全力で向き合ってくれたのだと、卒業式の日のあの涙を見て改めて感動しました。そしてその時に、子どもに全力で向き合うことのできる先生になりたいと思い、決意しました。

しかし、教員一年目としてどのように働いていけばいいのか分からないことが沢山あります。また鳩山町には、着任するまでは、ほとんど関わりがありませんでした。土地勘もなく知り合いの方もいませんでした。そんなときに私を助けてくれたのが、学校中の先生方でした。私が困っているとすぐに声をかけてくれたり、作業を一緒にしながら細かいところまで教えてくれたりします。できていないところや間違いに対しては、しっかりと指摘をしてくださるので、私のためを思っただけのアドバイスに、優しさを感じます。このような温かい環境で仕事ができているのは、本当に恵まれていると感じます。また、着任したばかりの私の誕生日を、校長先生は覚えていてくださって、声をかけてくださいました。童心にかえったような気持ちで嬉しかったです。何気ないことでも覚えておく心配りが、大人だけでなく子ども達も、嬉しいということを教えてくださいました。

私が担任しているクラスの子供達は、素直で明るい子供達です。つい先日も給食をクラス全員で完食できたことを喜び、拍手がわき起こりました。さらに、男女の仲もよく誕生日がくると誕生日カードを渡したり、みんなで歌を歌ったりして互いに祝うことのできる心の優しい子供達です。

私は教員採用試験に向けて勉強しているときに、何度かくじけそうになりました。そんな時は、合格したら出会うことのできる子供達の姿を想像しながら、試験勉強に取り組みました。今担任している子供達は出会うべきして出会ったのだと感じています。そんな子供達からされて嬉しいサプライズがありました。一学期末に、「一学期頑張ったね会」という、お楽しみ会をした時の出来事です。お楽しみ会当日に、プログラムにはないサプライズで、子供達が作

った折り紙のプレゼントをくれたのです。その時はまったく気付かなかつたのと、あまりの驚きに嬉しさをうまく伝えることができませんでした。その後、私なりに嬉しい気持ちを子ども達に伝え、今でも貰った折り紙は、教室に飾ってあります。私自身、子どもと共に学び、共に成長していると感じています。

暖かい雰囲気の子も達を育てているのは、保護者の方であり、鳩山町という地域であり、学校だと思ひます。そんな魅力ある鳩山町で仕事をさせて頂いているので、地域の方との交流を深め、地域に根差した活動もしたいと思ひています。そのためにも、鳩山駅伝大会への参加をきっかけとして、鳩山町の皆さんと同じ競技に取り組むことで交流を少しでも深めたいです。教員生活同様、鳩山町の皆さんと共に全力で走り抜けていきたいです。

最後に、私は出会いに恵まれ、いろいろな人に支えられてきました。初任者指導の先生や、同じ学年の先生、職場の先生方、保護者の方たちなど多くの皆さんに感謝しています。そして、鳩山町で始まった教員生活に縁を感じています。これからさらに鳩山町の良さに触れ、良さを知り、それを子ども達に伝えることのできる教員として精一杯努力していきます。

「泉井の伝統行事 ささら獅子舞を守るため」

亀井小学校 6年 小池 佳奈

未来の泉井、鳩山町がいつまでも笑顔あふれるすてきな町であるために、泉井の伝統行事ささら獅子舞を伝え、残していくことは欠かせないと私は思います。

ささら獅子舞は、今まで百年以上の歴史があります。3年生の社会科の教科書にもあるように、この芸能で、人々の無病息災、五穀豊穡を願い、神社に奉納しています。鳩山町の平和は、ささら獅子舞に今も守られ続けていると私は信じています。

私は小学校 1年生の時からこのささら獅子舞に参加しています。私は「花がさ」という役をやっています。「花がさ」は、「ちゃっちゃこ」という竹で作ったものをすって音を出す楽器を弾いています。主に小学生がやっています。他に、太鼓をおどりながらたたくのが獅子です。獅子は小学 4年生以上の男子を中心にやっていますが、女子にもできます。その経験の中で、私が感じているささら獅子舞の良い所はたくさんあります。

一つ目は、ことわざの「習うより慣れよ」のように、初めての子でも軽い説明を受けて、あとは上級生に聴いてもらったり、自分で太鼓や笛の音を聴いて覚えたりします。そのため、上級生は教える力が伸びて、教えてもらう子は自分から考える力が伸びるということです。

二つ目は、1年生から高齢者まで、広い範囲で触れ合えることです。同年代の子と楽しく話したり、高齢者の方から知恵を頂いたりすることで、幅広い人間関係を築くことができます。

三つ目は、想像力をふくらませることです。ささら獅子舞にはストーリーがあります。太鼓をたたいて舞いながら、また、ちゃっちゃこを弾きながら獅子は何をしているのか、どんなストーリーがあるのかを頭にうかべることで、想像力が豊かになり、その様子を思い浮かべると、心も豊かになります。

しかし、近頃感じている問題があります。それは、ささら獅子舞の伝統を引きつぐ子供が減ってきていることです。実際に花がさは 7人の小学生がいますが、獅子をやる小学生は一人もいません。先ばいの方々は全員あまり来ないので、高齢者の方がやることになり、無理をさせてしまっています。こんなことになっては、みんな疲れきってさらに人数が減ってしまうかもしれないし、高齢者の方々も体調をくずしてしまうかもしれません。

だからこそ、来年獅子をやりたいと言ってくれる子がいたり、またささら獅子舞に入るか考えている子がいたりすると、私にとって大きな希望になります。そして、今年 3人の新 1年生が入ってくれました。

このような一人一人の思いが積み重なってつながるのが伝統だと思います。この伝統は、いつまでも未来の平和を守ってくれると信じて、私は卒業しても出来る限りささら獅子舞に参加していきたいと考えています。

そして、これからも鳩山町の方々はもちろん、町外の多くの人たちに知ってもらい、受け継がれてきたこの伝統行事ささら獅子舞を未来へとつなげていき、鳩山町の平和がずっと続くよう願っています。

「お互いに広い心を持って」

今宿小学校 6年 清水 悠翔

ぼくは、夏休みにテレビで見た「あおり運転」について考えました。考えようと思ったきっかけは、何回もテレビで流れたので印象に残ったからです。

夏休み中にニュースで取り上げられることが増え、今では、多くの人が「あおり運転」について知っていると思います。自分自身があまり意識しなくても、相手を怒らせてしまい、「あおり運転」をさせてしまうと思うと、とても怖いなと思いました。また、「あおり運転」そのものが、自分勝手な基準でとられた行動であり、とても悪質だなとも思いました。ぼくは、「あおり運転」を減らし、安全に運転するためには、お互いに広い心を持つことが大切だと思いました。

ぼくは、「あおり運転」のニュースを見たときに、加害者の供述を聞きました。その時に、お互いに広い心を持たないといけないなと思いました。その言い分は、「前を走っていた男性の車が遅かった。だから、腹がたった。」というものでした。この話だけを聞くと、両方に非があるのではないかと考えられます。

しかし、「あおり運転」をした方が悪いと思う人はたくさんいると思います。たしかにその通りだと思います。前を走っていた車に非があったとしても、後ろからあおってしまった方が悪いと思います。しかし、被害者の方も周囲への思いやりの心を持って運転していれば、防げることがあるのかもしれない。

ぼくは、この原稿を書きながら、もう一度あおり運転について考えてみました。相手とのトラブルを減らし、安全に運転するためには、思いやりの心が必要だと思います。お互いに広い心を持てば、さらに世の中がよくなると思いました。

今回の事を通して、自分も運転するようになったら、「あおり運転」をする方にも、される方にもならないように、相手のことを考えた行動を心がけたいと思いました。他の人への思いやりの気持ちを持ち続け、お互いに気持ちよく安全に運転したいです。

「将来の夢」

鳩山中学校 2年 鳥濱 奏太

みなさん、こんにちは。鳩山中学校 2年の鳥濱 奏太です。突然ですが、小中高校生のみなさん、将来の夢はありますか？僕の将来の夢は医師になることです。僕が初めて医師になりたいと思ったのは、小学生の頃です。僕は昔から少し体が弱く、風邪はあたりまえのようにひいていました。そんな中で一番印象に残っていることが、小学校五年生の時にかかった『マイコプラズマ肺炎』です。僕は小さい頃に何度も入院したことがあります。物心ついてからの入院は初めてだったのでとても不安でした。最初はとても怖かったです。いつもだったら学校へ行ったり、習い事へ行ったりするのに一日中寝たきり。夜もトイレに行くのが怖くて、なにより嫌だったのは、決まった時間にする点滴です。その点滴の痛さを例えるなら、腕の中を巨大なヘビが通っているような感じでした。血管が破裂してしまうのではないかと思うくらいの痛さでした。ずっと辛かったけれど、医師の人の

「頑張ったね」

の一言に救われました。

もう一つ印象に残っていることがあります。それは去年のことです。僕は去年の夏、熱中症で倒れ、救急車で搬送されました。救急車の中での出来事は、あまり覚えていません。ですが、少しだけ覚えていることがあります。それは、救急隊の人たちの声や病院についての看護師さんたちの声や医師のひとたちの声です。救急隊の人が、

「もう少しで病院だから頑張れ。」

と、とても優しく話して下さった事を覚えています。

マイコプラズマ肺炎で入院した時も、熱中症で救急車で搬送された時も母や部活の顧問の先生や学校の先生方が心配してくれました。入院中、母は毎日面会に来てくれました。先生方も病院まで来てくれて、とても温かい気持ちになりました。

この二つのことを通してわかったことがあります。それは言葉の重要さです。いくら勉強ができて、医師としての技術が優れていても、患者さんの心に寄り添ったり、相談にのったりすることはできません。僕はこれでは医師とは呼べないと思いました。

そして、昔は「医師ってカッコいいな。」としか思っていなかったけれど、今では、「医師になりたい。」と強く思うようになりました。口では言うものの、今の医師の人たいは、僕たちが想像できないくらい、陰で努力してきたんだと思っています。僕も努力したことがあります。医師の人たちの比ではないです

が、習い事で努力し、今でも部活で努力しています。この努力の何十、何百倍
くらいの努力をしている医師の人たちは、僕の憧れと共に夢でもあります。今
はまだ、夢を叶えるために、できることは限られているかもしれませんが。です
がその限られた中でも、一つ一つ全力で取り組み、一步一步確実に、夢へと近
づけるように頑張っていきたいです。

「みんなに支えられて」

鳩山小学校6年 西幅 万里乃

私は今、鳩山小学校でたくさんのことを勉強しています。毎日が楽しくて、休みの日でも学校に行きたいぐらいです。そんな毎日が過ごせるのは、小学校生活を共に過ごしてきた仲間がいるからです。学校では、一人では考えられないことや気づけないこと、人の温かさなどたくさんのことを気づかせてくれます。小学校生活最後の運動会の組み立て表現では、みんなで声をかけ合い支え合うことで友だちの想いや大切さに気づくことができました。修学旅行では、事前に学習して準備をしっかりとしていきました。そして、先生やガイドさんがいない班での行動では、自分たちだけで周りの状況や時間を確認しながら話し合い、判断して日光をめぐるしました。自分たちで考えて行動したことが、添乗員さんやホテルの従業員さん、お客さんなど色々な人に褒められました。

ときには友だちと言いつたり、不安に思ったりすることもあります。クラスの明るい仲間がいるからこそ、たくさんを乗り越え、私も自分らしく明るくいられるのだと思います。

そんな楽しい学校生活を送っている陰で私をいっぱい愛情で育ててくれているのが家族です。父は学校の先生をしています。いつも忙しそうにしていますが、それでも私に、「学校はどう。いじめはない？」など、聞いてくれます。今までは、ただの会話だと思っていましたが、今は、その言葉が私への思いやりなのだと感じています。休みの日になると、父は色々な場所に連れて行ってくれ、たくさんを教えてください。ある日、科学技術館から帰る電車の中で、目の不自由な人に出会いました。そのとき、父が笑顔でやさしくその人を案内している姿を見ました。そして、こんなことを言いました。

「気持ちがいいな。まりも学校で困っている人がいたら助けるんだよ。まりにもこの気持ちを体験してほしいな。」と。その姿は、とてもかっこよく憧れました。父と会う時間は少なくても、父は私のことを思い、私の成長を願ってくれる世界で一人しかいない、かけがえのない存在です。

母は、ずっとバスケットをしています。1年生のとき、母から「バスケットをやろうよ。」と誘われましたが、走ったりして疲れるからバスケットを断ってしまいました。時がたち、母がやっているバスケットを見に行きました。母は楽しそうにバスケットをしていて、試合に勝ちました。そして、母は「楽しい。やりたくなった？」と言いました。私は母がこんなに楽しくうれしそうにする姿を見て、私のスイッチが入りました。6年生になり、クラブチームにも入りました。レベルが高く、いやだなと思っていると、母が、「じゃ、上手になろうよ。」と言い、外用のボールや新しいバッシュを買ってくれ、たくさん教えてもらいました。でも、すぐ

できなくて、たくさん怒られて、やりたくなくなったときも、母に背中を押し
てもらい、前に進むことができました。こんなに夢中になれる大好きなバスケ
に出会えたのは母のおかげです。感謝でいっぱいです。そんな母は学校のP T
A会長をしています。母はどんなことがあっても、みんなの前に出る時は明る
く元気に振る舞い、学校のために頑張っています。私もそんな母の姿を見て、
代表委員を頑張ってきました。母の姿を見るとまだまだだと感じてしまい、も
っと頑張りたいと思いました。母は、母としても家族のことをしっかりと考え
てくれています。叱るときは叱り、褒めるときは褒めて、ちゃんと励ましてく
れる母が言葉では言い表せないくらい大好きです。

私は、家族からたくさんの愛情をもらい、たくさんのことを学んでいます。
さらに、クラスの友達や地域の人々にもたくさん支えてもらっています。たく
さんの人に支えられて、今の私がいます。

私には夢があります。

父のように、誰にでも優しく、いろいろなことに気を配るような人になり
たい。

私には夢があります。

母のように何事にも一生懸命で厳しさと優しさいっぱいの人になりたい。

私には夢があります。

私を、今迄支えてくれた人達のためにも、たくさんの人を支えられる人にな
りたい。

そのために、これからもっともっと成長していきたい。

「今 楽しみにしていること」

一般 小林 和生

私は、今回のテーマ「今 楽しみにしていること」についての発表をしたいと思います。それは、スポーツのアーチェリーです。何故アーチェリーを楽しみにしているかを語るにあたっては、それまでの経緯とそこに至るまでのことをお話ししたいと思います。

現在、私は定年退職をして 9 年目になりました。定年を機に大好きなゴルフ三昧だ、と思っていたやさき、4 月ごろから、何か打ち方がおかしくなり、左足に力が入らなくなり、コースに出て 1 ホールでリタイアし、乗用カートの運転手に徹しました。この後ゴルフとは離れていきます。元々私は、生後 1 年でポリオに罹り右足が不自由でした。ポリオはポリオウィルスが脊髄に入り運動神経を麻痺させる病気でした。ポリオはかつて小児期の麻痺性的な病気であったことから、「小児麻痺」とも言われています。ポリオに罹って右足が不自由な私を両親は、小学校を 1 年遅らせようと考えたこともあったようです。しかし、遅れずに入学してみると、なんと足の悪い同級生が、私も含め 5 人もいたのです。多分当時は、ワクチンが出来ていなく流行していたのかもしれませんが。当然みんな別々のクラスで 6 年間過ごしました。

小学校時代の経験が私の人生を左右します。あまり勉強は好きではなかったのですが、音楽と体育だけは好きでした。体育は当然走ることもできませんでしたが鉄棒が得意で、同級生の前で模範演技をしたのを覚えています。音楽は 4 年生の時、友達が合唱部のオーディションを受けに行くのについていくと、先生が私にも歌ってみろと言うので、歌ってみると私が受かり友達が落ちてしまいました。合唱部に入る気はなかったのですが、歌は好きだったのでそのまま入部することにしました。これが音楽との出会いです。その後、中学・高校と吹奏楽部に入り、高校の音楽の先生からの勧めで音楽大学に進学することができ、また、音楽の教員になることができました。両親も足が悪いので何か手に職をつけさせたい思いもあり、授業料が高く、お金のかかる音楽大学を許してくれました。それが、36 年間も教員ができた理由です。

話は戻りますが、障害者手帳 4 級でしたが先ほどお話しした運動が好きで、特に年を取ってからはゴルフに専念していましたが、そのゴルフが出来なくなりました。退職して 2, 3 ヶ月で左足も細く動かなくなり、どうしたらいいか不安でいっぱいでした。色々ストレッチやできる運動をしましたが、一向に変化が見られませんでした。そうこうしているうちに 1 年がたち何かしなければと模索していたところ、インターネットで障害者スポーツと検索したところ、埼玉県障害者交流センターがでてきたのです。

この交流センターでは、スポーツや文化活動を推進している施設で「障がいのある人も無い人も互いに支えあい、地域でいきいきと暮らせる社会の実現」の理念のもと、たくさんの方が利用しています。私はそこで、今までやったことのないスポーツ・アーチェリーを選択し、活動しようと思いました。まずそこでは、看護師さんの面談があり、その面談で足のことを話してみると、センターに来ている医師に診てもらうことになりました。そこでの医師の話で、埼玉県総合リハビリセンターで検査した方がいいということで診てもらいました。結果、ポストポリオであるという診断が下されました。

皆さんはポストポリオをご存知でしょうか。ポリオの後遺症を持った人たちが、現在それぞれの分野で活躍していますが、これらの人たちが50～60歳前後に達したころに手足の筋力低下、しびれ、痛みなどの症状が発現して、日常生活が出来なくなる病気です。ポリオ経験者は、一般に努力家で後遺症を持った手足に対して、一生懸命に機能回復訓練をする人が多く、これが長年頑張った神経が50歳から60歳ごろになって疲れを生じて神経・筋肉が萎縮したり消滅したりし始めます。これがポストポリオで、ポリオの二次障害であるということです。ポリオの感染者の40～60%の人が罹り、男性の人がやや多いと言われています。このポストポリオに私は罹っていたのです。退職前は歩いていろいろな運動もしていたのですが、残念ながら今は歩くことが困難となり杖か車椅子で生活をしています。ただ、少々不便になりましたが、前からも不便だったのであまり気にすることはありません。この診断がはっきりしたので、不安や心のもやもやがなくなりアーチェリーに邁進することができました。交流センターのアーチェリー場利用者は、初心者は初心者教室の講習を受けないと射ることができません。初心者教室を受け、6・12・18・30・50メートルと認定を取得し腕前が上がっていきました。

現在、アーチェリー歴7年目になりますが、1週間のうち5日間は、片道37キロの交流センターの射場に通り、あと2日間は上尾にあるリハビリセンターの健康増進課で体力作りをしています。練習の成果は直ぐに結果として現れ、アーチェリー1年目にして、2013年全国障害者スポーツ大会東京大会で、埼玉県代表として全国で優勝することができました。この全国障害者スポーツ大会は、国民体育大会から設立された障害者のスポーツ大会で、開会式に私が出たときは、皇太子ご夫妻が出席されました。この大会の主旨は、障害者に対するスポーツの普及または障害者の社会参加の推進、さらにスポーツを通しての友情と国民のバリアフリーの意識を高めるために企画された大会で、開催は毎年、国体の秋季大会の開催終了後に国体の会場と同じ施設を使って3日間に渡り開催されています。大会に出場するには、各都道府県大会主催の障害者スポーツ大会において上位入賞者が選ばれます。

ただ、国体とは少々違い実施種目が限られています。

皆さんはアーチェリーのことをご存知でしょうか。基本的な競技方法はいたって単純で、弓と矢を使って数十メートル離れた標的を狙って射、矢が刺さった所によって得点が決まり、合計得点の高い人が勝ちです。ちなみに、オリンピック・パラリンピックでは70メートル先の的を狙います。的の大きさは122センチの大きさで、中心から10点9点～1点となり、的の一番いい点10点を狙います。ちなみに的の中心の大きさはCDの大きさ12センチでそこを狙って射ます。予選では、4分間で6射を射それを1回として、計12回76射を射ます。その後、トーナメントとなり優勝者を決定します。これは、オリンピック・パラリンピックの試合方法ですが、また、試合によっては違った方法で試合を行います。

現在私は、パラリンピックに向けて練習していますが、一時はランキングでもいいところに入ったのですが、ゴルフや野球でいうイップス、アーチェリーではターゲットパニックというのに罹りスランプに陥っています。しかし、練習は裏切らないを念頭に置いて朝8時半に家を出て、6時に帰宅の毎日です。次のパラリンピック東京ではなく、ターゲットパニックを克服し、2024年のパリに目標を置いて、自らを鼓舞し高齢者アーチェリーとして頑張っています。人の一生は出会いを通して・心を養い・考えを深め・生き方を探ると言われています。出会いには、人・自然・動物・本・スポーツ・文化活動等、様々なものがありますが私は、障害との・音楽との・スポーツ（アーチェリー）との出会いに感謝しています。また、家族の協力と理解に感謝し、私の話を終わりとさせていただきます。

「ハトミライ☆プロジェクト2020」

鳩山高校生徒会 池田 裕太・片桐 賢也

皆さんこんにちは。鳩山高校 生徒会の池田です。片桐です。本日はよろしくお願ひします。

昨年は、ハトミライ☆プロジェクトの進捗状況についてお話をさせていただきました。そして今年もこのような機会をいただいたので、昨年度と今年度のハトミライ☆プロジェクトについてお話していきたいと思ひます。

まず、概要を説明します。「ハトミライ☆プロジェクト」とは、2年前の鳩山高校生徒会の荒山が計画した、鳩山町と鳩山高校が協力して、鳩山町の活性化、自然の有効活用、知名度の向上、鳩山町への地域貢献を目的としたプロジェクトです。

現在、鳩山町は高齢化が進んでおり、町の半数が高齢者です。それに伴い、人口が減少しつつあります。そんな今だからこそ、鳩山町の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらおうと考へ、計画したのがこの「ハトミライ☆プロジェクト」です。そして鳩山町の活性化のために何度もプロジェクトの構想を練り直し、鳩山高校を中心として鳩山町全体を盛り上げるものといへば、春に咲く桜がこのプロジェクトのイメージにピッタリではないかと思ひ、桜を使ったイベントを企画しようと思へ、「桜の植樹」という形で実施してきました。

1年目の一昨年度は、毎年ボランティア活動でお世話になっている福島県で育てた苗木を「ふくしまサクラモリプロジェクト」から提供していただき、鳩山町農村公園に1本の桜を植樹することができました。2年目の昨年度は一昨年度に引き続き「ふくしまサクラモリプロジェクト」より苗木を提供していただき、鳩山町の「石坂の森」に9本の桜を植樹しました。植樹の前日に「NPO法人里山環境プロジェクト・はとやま」の皆さんにもご協力いただき、植樹する場所の確保や、腐葉土の運び込みなどを行いました。

当日は、普段から顔を合せている生徒たちや先生方だけでなく、お世話になった小峰町長様や鳩山町役場の職員の皆様、テレビ局の方や新聞社の方々、そして地域の方々など、多くの方にお越しいただくことができました。さらに、福島県いわき市出身の女優、武田玲奈さんにもお越しいただき、鳩山高校と福島県の繋がりをあらためて実感しました。福島県の新聞にも取り上げていただき、県外にも「ハトミライ☆プロジェクト」の取り組みを広めることができました。

3年目の今年度の桜の植樹予定場所は、鳩山町にあるJAXAの「地球観測センター」です。JAXAの敷地内にはすでに多くの桜が植えられていますが、それに負けないくらい、きれいな桜を咲かせたいと思ひています。今回も、日

程や場所を決めるにあたって、6月に鳩山町役場の方と打ち合わせを実施し、その後、交渉を重ねてきました。その結果、2020年3月25日にJAXAの敷地内にて桜の植樹をすることが決まりました。

この活動に地域の方々にも多く参加していただくことで、地域の方の理解を得ながら、地道に活動を続けていきたいです。そして、これまでの活動経験を次の代へと繋いでいき、鳩山町のさらなる発展に貢献していけるよう、頑張っていきたいと思います。

やがて春になって、これまでに植樹した桜が花開き、鳩山町が笑顔でいっぱいになる日を心から楽しみにしています。

最後までご清聴いただき、ありがとうございました。

「鳩山町の交通死亡事故0」

亀井小学校 6年 福岡 春佳

私達が住んでいる鳩山町では、平成31年度2月2日に「交通死亡事故ゼロ十年」を達成しました。私はこのことを知り、なぜ交通死亡事故が無くなったのか。そして、これからも交通死亡事故ゼロを続けるには、どのようにすれば良いのかを調べ考えてみることにしました。

まず、初めに交通死亡事故が無くなった理由を調べてみることにしました。町民からは「スピードを出している車が危ない。」などと、速度違反の取り締まりを求める声が多いといいます。署は「町民の意識の高さが交通死亡事故が無くなった要因では。」と分析しているようです。私はこのことを調べ、私のおじいちゃんもスピード違反の取り締まりを求め、駐在所に言っていました。確かに効果があるのだと感じました。

そして、二つ目の理由は町内で運行している「デマンドタクシー」の存在と言えます。「デマンドタクシー」とは、町民なら誰でも一回百円で町内全域を利用できるタクシーです。2012年に本格運行を始め、2016年には年間の利用が約13000回に上がったそうです。利用者は年々増加しており、ほとんどが高齢者だといいます。私は確かに年々ニュースなどで、高齢者ドライバーの事故が増えているなあと感じていました。そして、今年の大きな事故と言えば、東京・池袋で4月19日、87歳の高齢者ドライバーが運転する車が暴走して、松永真菜さん31歳と長女莉子ちゃん3歳が亡くなりました。私はこの事故を知り、幼い命が奪われたことをとても悲しく思いました。その中、鳩山町では、1回100円で利用できる「デマンドタクシー」の運行を始めたため、利用する高齢者の方が増えました。自分で運転するのではなく、「デマンドタクシー」を利用することで、交通事故が無くなったのだと思います。

そして、次にこれからも交通死亡事故ゼロを続けるにはどのようにすれば良いのかを考えてみることにしました。まず、私が思ったのは、身近に危険があると意識することです。自分もいつどこで事故にあうかわからないので、常に気をつけながら意識することが大切だと思いました。次に思ったのは、学校の登下校の時に低学年の安全に十分に気をつけることです。まだ、低学年は交通ルールについて危ないと感じることがあります。私の学校では、一斉下校の時に「もしかして・止まる・見る・待つ・確かめる」のキーワードをよく先生が話してくれます。このキーワードを日ごろから低学年に伝え安全を守っていきたいです。

このように鳩山町では、町民の意識の高さが交通死亡事故を無くし続けていることが分かりました。これからも町民の意識を大切に交通死亡事故をなくし

ていきたいです。そして、これからも交通死亡事故ゼロを 20 年、30 年と続けるには町民の力が必要です。これからも交通死亡事故ゼロを皆さんで作っていきましょう。

「ストップ！大気汚染」

今宿小学校 6年 河田 直昂

雨は、地球上の生き物にとって、とても大切なものです。雨が降らないとどんな生き物も生きることができません。しかし、今、世界中で起きている大気汚染により、その雨が汚れ、酸性雨となり、木が枯れたり、銅像が溶けたりしています。果たして僕たちは、大気汚染を止めることができるのでしょうか。

ニュースやコマーシャルで、大気汚染や酸性雨のことが流れることがあります。町全体がけむりのようなものに包まれた画像や銅像が溶けた画像が出る場合があります。僕は、大気汚染や酸性雨がこれほどひどいものだ、この時に初めて知りました。また、動物や植物にも影響があることも知りました。僕たちは動物のためにも、植物のためにも、何より僕たちが笑顔で暮らしていくためにも大気汚染を防がなければなりません。

大気汚染や酸性雨に対してどのような対策が行われているのでしょうか。そして、自分たち個人ではどんなことができるのでしょうか。まず、日本の対策は「東アジア酸性雨ネットワーク」に参加することです。東アジア酸性雨ネットワークは、酸性雨のモニタリングの調査を行っています。また、大気汚染の度合いや、どこから来てどのくらい影響があるのかを調査しています。また、国や世界だけでなく、個人でできるものもあります。例えば車をエコカーにする。車の使用を控える、ごみの分別をしっかりとる。不要な電気を消す、水を出しっぱなしにしない、冷暖房の使用を控えるなどがあります。

けれども、大気汚染や酸性雨対策として、個人ができるものはほんの少しです。また、少しの人々が大気汚染対策をしても、あまり効果がないと感じる人もいるでしょう。しかし、一人一人ができることは少ないけれど、みんなが意識して行動すれば、大気汚染をなくすことにつながる可能性は大きいはずです。大気汚染に対して、少しでもよくなるよう世界中のみんな考えなければなりません。

大気汚染はとても深刻な問題です。大気汚染を防ぐために、節電をする・節水をする・ごみの分別をしっかりとるなど、簡単なことから始めてみましょう。みんな意識して行動すれば、大気汚染やそれによる被害を防げるかもしれません。

「泉井神社 ささら獅子舞について」

一般 千装 公明

みなさん、こんにちは。私は鳩山町泉井に住んでおります、千装公明と申します。間もなく 86 歳になります。定年退職後は農業の傍ら、15 年前から泉井神社氏子総代長並びに泉井獅子舞保存会の会長を務めております。

これから、「泉井神社ささら獅子舞について」と題しまして、お話しをさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

最初に、泉井神社ささら獅子舞の由来、起源についてお話しします。

今から約 560 年前の長禄元年、西暦でいうと 1457 年になります。時代は室町時代後半、室町幕府第 8 代将軍の足利義政が政治を行っていたころです。そのころにこの地に移り住んだ先人たちが諏訪大明神をまつり、悪魔退散・無病息災・五穀豊穡・家内安全を祈願して奉納したのが始まりとされています。

次に、獅子舞の奉納、つまりいつやっているのかについてお話しします。

現在は泉井神社秋季例大祭において奉納されています。明治 40 年、西暦では 1907 年に当時の泉井地区にあった黒石神社、愛宕神社、稻荷神社の 3 つの神社を諏訪八幡神社社殿に合祀、つまりこれらの神社を合わせて社号を泉井神社と改めました。例大祭は当初 9 月 8 日、9 日に行われていましたが、後に 10 月 9 日、10 日の 2 日間で行われるようになりました。昭和 51 年、西暦では 1976 年より 10 月の第 2 土曜日、日曜日に実施しています。この祭りは、別名「甘酒祭り」とも言われており、かつては例大祭当日にはどこの家庭でも米麴の甘酒をつくり、皆に振る舞ったとされています。

さて、長い歴史をもつこの獅子舞をどのように保存、継承しているのかについてお話しします。

泉井神社ささら獅子舞は、昭和 52 年、西暦では 1977 年、当時の鳩山村指定無形文化財第 1 号に指定されました。同じ年に泉井獅子舞保存会が組織され、かつてこの獅子舞を経験した会員を中心に獅子舞の保存と後継者の育成に努めています。10 月の例大祭に向けて、毎年 4 月より月 1 回、例大祭直前の 9 月下旬からはほぼ 1 日おきに計 12 回の稽古を行います。獅子の動きや太鼓のたたき方、花笠の楽器の使い方等については人から人、言葉による口伝えで行われます。笛については昭和 61 年に作られた譜面と言っても音楽の教科書のように 5 線譜に表したものでなく、笛の穴をふさぐ場所や音を言葉に表したものが載っているのですが、それを活用して伝承しています。

一口に獅子舞と言っても、獅子だけでなくその他にも様々な役割があります。それについてお話しします。

獅子舞の奉納は、すべて泉井地区に住む住民の手によって行われています。それぞれの役割について、実際には写真や映像等で見ていただくのが一番わかりやすいのですが、本日は言葉だけの発表ということですので、どこまで伝えられるのかわかりませんが、次のとおりです。

まず、万燈（まんどう）です。獅子舞行列の先頭を花をつけた傘を持って歩きます。文字どおり一行の前を照らし、道案内をします。

次に、猿田彦（さるたひこ）です。獅子舞奉納の警備役を担います。天狗の面、たっつけ袴姿で獅子舞が行われている周囲を歩き回ります。

次は、花笠（はながさ）です。4人一組で「ささら」、「ちゃっちゃこ」とも言いますが、竹を使ってつくられた楽器を演奏します。以前は男子、長男などの条件により選ばれた小学校中学年以上の4名に限られていましたが、現在は男女にかかわらず小学校1年以上の希望者により行われています。

次は、笛（ふえ）です。その名のとおり横笛、篠笛を吹いて獅子舞全体の演奏を行います。これまでは成人の男性により担当されてきましたが、最近では花笠を卒業した女子中学生も参加するようになってきています。

次は、行事（ぎょうじ）です。かつて獅子を経験した者が、稽古の間は獅子や花笠の指導、獅子舞の当日は3頭の獅子をそれぞれ先導します。獅子舞の指導だけでなく、例大祭当日の獅子舞全体の円滑な運営にも携わります。例えば、獅子舞が始まる時や終わりに近づく時に「法螺貝」を吹いて知らせることもその一つです。

最後は、この獅子舞の主役である、獅子（しし）です。獅子は、判官（ほうがん）と呼ばれる毛は白い高齢の雄の獅子、雄獅子（おじじ）と呼ばれる毛は紫・緑・黄色の3色の若い雄の獅子、そして雌獅子（めじし）と呼ばれる毛は赤と黄色の2色の流麗な雌の獅子の3頭です。以前は男子、長男などの条件により選ばれた小学校高学年以上の3名に限られていましたが、現在は概ね小学校4年生以上の希望者により行われています。男子により行われることが通例でしたが、最近は女子でも希望する者が出始めています。

それでは、例大祭当日における獅子舞の演目について、お話しします。

獅子舞の演目はそれぞれ「庭（にわ）」と呼ばれています。2日間にわたり奉納される獅子舞の内容については次のとおりです。

獅子舞1日目のことは「宵い待ち」と言います。「宵い待ち」では、街道通り（かいどうどおり）、宮参り（みやまいり）、初庭（しょにわ）、中庭（なかにわ）という演目が披露されます。初庭が終わると、街道通りで「宿」と呼ばれる場

所に移動し、中庭を演じます。

「宿」とは、獅子が 1 日目の夜に泊まる所を意味します。その昔は経済的に豊かな家が「宿」となり、その夜の酒、肴など一切の賄を請け負ったとのこと。現在は公民館などの公的な施設が「宿」となっています。

獅子舞 2 日目は「本待ち」と言います。「本待ち」では、「宿」での宿庭（やどにわ）を行い、その後「街道通り」で神社へ移動し、宮参り（みやまいり）、初庭（しよにわ）、中庭（なかにわ）、願編木摺（がんぎさら）、終庭（しまいのにわ）を披露し、再び「街道通り」で宿に帰ります。

今お話ししたそれぞれの演目について、どのようなものか簡単に説明します。

「街道通り」は、神社から宿、宿から神社に向かって歩く際の演目です。

「宮参り」は、本殿に到着後、宮司からお祓いを受け、本殿を 3 周する際に行われる舞です。

「初庭」は、本殿から境内に場所を変えて、最初に奉納する獅子舞です。約 20 分です。

「中庭」は、雌獅子をめぐって判官と雄獅子が争い、再び仲直りをするというストーリー性かつ見応えのある「雌獅子隠し（めじしがくし）」を奉納します。約 40 分です。

「宿庭」は、獅子の宿となる家の前、現在では公民館亀井分館の前で奉納する獅子舞です。約 15 分です。

「願編木摺」は、様々な願い事がある人のための獅子舞です。願い事がある人は「願編木摺」と書かれた紙製の幟を持ち、獅子舞の輪の中に入る場面があるのが特徴です。約 20 分です。

「終庭」は、神社の境内で奉納する最後の獅子舞です。約 15 分です。

それぞれの「庭」では「詩（うた）アゲ」という笛の演奏と歌による演目があります。それぞれ内容は異なります。歌詞については省略します。

獅子舞の様子は、鳩山町ホームページ「広報はとやま動画チャンネル」でも紹介されていますので、後でご覧になってください。

最後に、この獅子舞を保存、伝承、継続していく上で課題となること、つまり今後考えていかなければならないことについて、お話しします。

1 つ目は、後継者となる子供の数が少なくなっているということです。少子化は泉井地区、鳩山町に限ったことではありませんが、この獅子舞においても獅子や花笠のなり手となる小中学生の数が少なく、特に獅子においてはここ数年、大人の手を借りて奉納しているのが現状です。獅子舞に関わる子供をいかに増やしていくかが課題です。

2 つ目は、伝統文化の魅力をいかに広めていくかということです。泉井地区

に住んでいる子供は獅子や花笠ができる、といってもこのようなことに興味や関心がない子供がいるのもまた事実です。ここ数年、獅子舞が近くなると所々にのぼり旗を設置したり、ポスターを掲示したりして獅子舞の広報に努めています。獅子舞に関わっていない泉井地区の子供たちをはじめ、多くの皆さんにこの獅子舞を見に来ていただくことで、伝統文化の魅力を広めるとともに、現在町と協働ですすめている北部地域活性化の推進にお役に立てればと思います。

3つ目は、住民の協力を今後も維持、継続できるかということです。この獅子舞のよさの一つに、「泉井地区に住む住民の手によって行われている」という点が挙げられます。獅子舞の奉納だけでなく、例大祭当日の境内を盛り上げようとボランティアによる「模擬店」の出店が、20年ほど前から行われています。おかげで多くの老若男女が境内に集い、活気を見せています。このような泉井地区住民の協力を今後も維持、継続していくために、獅子舞を中心とした「和」を大切にしていかなければと思います。

「想いを受け継いで」

鳩山小学校 6年 藤堂 愛理

「早くお家に帰りたい。」

弟は3才の時に入院していて、これはその時の弟の口癖だった。担当医や看護師さんが来るたびに、その言葉を言っていることを父や母から聞かされていた。私は面会することができず、何もわからず、ただただ不安になっていた。弟のことを考えるといつも大粒の涙が自然とあふれ出ていた。お医者さんや看護師さんが一生懸命治療してくれたおかげで、弟も元気になっていった。この出来事から、世の中には病気になってしまう人がいて、それにより不安に思っている家族や身内の人がたくさんいるのだと気づかされました。

そんな中、ある人物に出会いました。その人物とは「野口英世」です。本の中に、彼の生涯が記されていました。彼は小さい頃、左手にひどいやけどを負い、指がくっつき、ひきつっていたため、周りの友だちからいじめられてしまい、学校にも行かなくなってしまいました。しかし、ある素晴らしい医者に出会い、その手を治してもらい深く感動しました。自分の受けた恩を、より多くの人に返そうと、医者になり努力した人物です。

私が印象に残った野口英世の言葉があります。「過去を変えることはできないし、変えようとも思わない。なぜなら、人生で変えることができるのは、自分と未来だけだから。」

その強い思いから、アメリカに渡り、黄熱病と伝染病の研究を続け成し遂げることが出来ました。その野口英世の思いにとても感動しました。

私はもう一つ感銘を受けたことがあります。それは、テレビ番組で見た「国境なき医師団」の事です。その団体の主な活動とは、独立・中立・公平な立場で医療・人道救助を行う民間・非営利の国際団体です。また、緊急性の高い医療ニーズに応えることを目的としています。国境なき医師団のMSFの活動は、95%が民間からの寄付で成り立っているそうです。私はこの活動について、よほど誰かのためという強い思いがなければ、決してできることではないと思いました。番組の中で医師は自分の想いを告げ、お金ではなく、誰かのために一生懸命働いているお医者さんの姿がありました。

私は、この二つの出来事が弟を助けてくれた医師の姿と重なりました。医者は人の命と隣り合わせの現場で働き、たくさんの患者さんの気持ちに寄り添い、病気から救うことができます。私は命をすくうことができる素晴らしさを知り、いつかきっとそんな大人になれたらいいなと思うようになりました。

しかし、今の医学界では、いくつかの問題点があるそうです。その一つに医師不足が挙げられます。海外では手術に入る医者は3人のところ、日本では2

人しか入れないそうです。また、育児のために、女医が少ないということも深刻な問題となっています。私は命に向かい合い、助けることが出来る医者が増えれば、体だけでなく、心も健康な人が増え、笑顔で幸せに暮らせるのではないかと思います。

私は、弟を救ってくれた医者や野口英世・国境なき医師団の医者たち思いを受け継ぎたくさんの人々の命を救い、患者さんの心に寄り添える医者になりたいと強く思うようになりました。そのために、これからたくさん勉強して多くの経験を積み、そして常に感謝を忘れず、夢に向かってしっかりと歩んでいきたいと思います。

皆さんは「絆」という言葉を知っていますか。「絆」という言葉を辞書で調べると「断とうにも断ち切れない人の結びつき」と書いてありました。

私は中学校に入学した頃から、鳩山中学校の絆はとて素晴らしいものだと実感しています。なぜなら、生徒の皆さんや先生方が一丸となって行事などを盛り上げていたり、普段の生活でもクラスの人たち同士で支え合い、一人一人が思いやりの心を持って動いていたりしていたからです。私はこれらのことに感動し、この大切な絆からさらに深い絆をつくりたいと思うようになりました。そのため、今は鳩山中学校の生徒会長としてその夢を実現させようと、日々努力を重ねています。

まず、一つ目は授業中の絆です。私のクラスは前に、先生から挙手発言が少ないため、授業がしにくいと注意されたことがあります。

その頃の私達は、周りに合わせてしまうことが多く挙手をするまで勇気が出ませんでした。けれど、このまま何も変わらなければ悪い雰囲気の状態、授業が続いてしまいます。そのことを何としてでも避けるため、間違えても挙手するという目標を自分の中でたてました。すると、私が挙手発言をした次の日から驚くほどに、積極的に挙手をしている人が増えました。私はこのような出来事があった後も、変わらず毎日積極的に挙手発言をしています。

二つ目は生徒会活動の絆です。私達生徒会本部は大きな行事を進行するにあたって、生徒の皆さんがより楽しんでもらうために話し合ってきました。どうすれば、生徒の皆さんが盛り上がりってくれるかを本部のみんなと協力して考えました。このように話し合いを繰り返していくことで、本部の間に絆が生まれ、そこからより良い行事がつけられていきます。

三つ目は地域の皆さんとの絆です。朝や学校の帰りなどに地域の方々に挨拶することも絆を深める唯一のことだと思っています。けれど、文化祭の後に行われる手作り体験教室では、地域の方々と一緒になって何かを作ったりすることでここでは絆も深めることができます。地域の方々と交流を増やすことができれば、地域の方々と絆も深まっていくことができるのです。

最後になりますが、絆とはどのようにして生まれるものなのでしょうか。決して、一人だけでは得られない大切なものです。より多くの人といて、支え合い助け合う。その中に絆が生まれ、そして喜びが生まれる。鳩山中学校の絆はこうして受け継いできました。

私はこの絆が、これからもその先も途切れることがないように、守り続けます。この鳩山中学校の皆さんと共に。

「面白い農業」

一般 飯島 千春

私は、ネギを栽培している飯島といいます。4年半前に鳩山町に引っ越してきて今、就農3年目になりました。皆さんによく聞かれる、なぜ農業を始めたのかということをお話しできたらと思っています。

神奈川県藤沢市から、家族4人で移住してきました。家を建てるため、神奈川県埼玉県と2年近く様々な所を見に行き、今住んでいる土地が一番気に入って引っ越してきました。縁もゆかりもない場所に来るのは本当に不安でした。子供もいるので少しでも早く慣れてくれること、私自身も新しい生活になじむことに必死でした。ただ、そんな心配も1ヶ月を過ぎるとたいした問題ではないことに気づきました。それは地元の皆さんの温かいお声がけや学校でも子供たちとすぐ仲良くしてくれたお友達のおかげでした。そんな中、家の前で家庭菜園を始めました。百㎡ほどの所に15種類ほどの野菜を作ってみる事にしました。野菜は今まで買って食べていたので、畑から直接収穫して調理した時、本当に感動しました。虫に食われているし、形は不格好でしたがこんなに美味しく、味も全く違っていました。野菜作りに興味を持ち楽しさを知っていくうちに、自分の作った野菜を色々な人にも食べてもらいたいと思い始め、今まで想像していなかった農業を仕事にするということを考えました。ただ、農家になるにはどうしたらよいのか全くわからず役場に相談しました。そこで農業大学校へ行くことをすすめられました。子育てをしながら学生になることに不安もありながらせつかくやるなら一から学びたいと思い、入学を決意しました。そして入学するまで時間があつたので、県の法人見学会や研修などに積極的に参加し、その中で動物園のコアラの飼料のユウカリ栽培の仕事を紹介してもらいました。面白そうだし、なかなか他にはない仕事なのでやってみようと思い、地元の方から畑を貸してもらい大学校に行きながらユウカリ栽培をはじめました。

今思うと、新参者の私に畑を貸してくれた地主さんには本当に感謝しかありません。大学校では基本的な実技と座学を1年間知識を吸収できるようにがんばりました。この歳になって学生になるとは思ってもみませんでした。

この1年間はすごく忙しい日々でしたが、充実したものになりました。家族の協力もあり、無事に卒業し、2017年に新規就農者として認めてもらうことができました。就農する際に一番大事なのは何を栽培するのかということです。大学校に在学中に市場調査をし、今の状況を考えた結果ネギが一番私に合うと思いました。それは定番野菜で一年中需要がある、深谷が産地で栽培等の情報が得やすい、一人で作業するのにネギ専用機械をそろえれば面積も増やせます。

そして多品目を作るのではなく品目をしぼったことにより、資材もネギに使う物だけ揃えればよいのでコストダウンになるし、勉強するのもネギにしぼってできます。私は元々たくさんを一度にできる器用さがないのでこの選択はよかったと思っています。ただその分、リスクもあります。販売先を増やさないとさばききれず、営業へ行かないといけません。そのために経営を学ぶ、県主催の農業経営塾に半年行ったり、管理や信頼性向上を目指しSIGAPを取得したり、主人が起業の勉強のため、比企起業塾に行ったりと栽培以外の面でもできることはやってきました。今後も勉強はしなくてはいけないのですが、色々な所へ行くのは日々の農作業をしながら大変でしたがよいこともたくさんありました。様々な事に参加することによってネットワークを広げられ、たくさんの方の協力を得られるようになりました。農場のロゴを作ってもらったり新商品も開発することができました。イベントにも参加し、ネギ料理を出したり、ミントを少し栽培しているのですが、お菓子やジュースもできました。今後、ネギは品質向上を目指し、今も失敗も多く思ったようにうまくいかなかった所を反省し次回へつなげていけるようにしていきます。これから先、やりたいことはハーブ園を作ったり、カフェもやってみたいという夢もあります。なので、大変なこともがんばれます。農業は楽しくやりがいもあります。本当に魅力的な仕事だと思っています。ただ、きついこともたくさんあります。今年のように台風、大雨で大事に育てた野菜がダメになってしまう、生育がよくなってしまふこともあります。それでも続けていこうと思えるのは食べておいしいと言ってもらえたり、農業を始めたことによりコミュニケーションの輪が広がりたくさんの方によくしてもらっているからです。

最後に企業理念でもある地域に根ざした個性的で面白い農業を実践し、色々な方に農業の面白さを知ってもらえるようにこれからもがんばっていこうと思います。今後も宜しくお願いします。